日本遺産を通じた地域活性化計画

（様式２）

|  |  |
| --- | --- |
| 認定番号 | 日本遺産のタイトル |
| 44 | 1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」～竹内街道・横大路（大道）～ |

|  |
| --- |
| （１）将来像（ビジョン）  |
| 【総合ビジョン】街道とその周辺で継承された「遺跡」や「祭事・神事」、そして守られ育まれた「季節ごとに彩られる風景」や「職人の技」などの地域資源が地域住民の誇りとなり、次世代へつなげていく環境をつくる。さらに、それらの地域資源を活用し、12の自治体が、それぞれの地域の魅力をつなぎ、重層的な歴史や自然、伝統を五感で楽しめる空間や観光ルートを創出することにより、魅力があり、人々が住みたくなる歴史的景観に包まれたまちづくりをめざす。あわせて、平成25年に竹内街道・横大路（大道）敷設1400年を契機に設立した実行委員会で宣言した内容にもあるとおり、次の100年に向けて、街道全体に人の流れを作り出し、愛着とにぎわいがあふれた、世界に誇れる歴史的空間の創造に取組む。これら取組については、街道沿線の各地域が行うことはもとより、府県を越えた構成自治体や民間事業者等が広域的な連携を図ることで、それぞれの地域が持つ多様なストーリーの磨き上げにつながり、街道全体の価値を高めることとなる。上記の取組が実現されることで、観光客の街道沿いへの長期滞在やリピーター増加にもつながり、地域活性化への好循環が生まれる。また、交流人口が増え、沿道地域の住民と観光客とのふれあいが生まれることで、シビックプライドの醸成、民間事業者や観光ボランティアなどの協力者獲得につながる。【地域の長期的構想（総合計画、観光振興計画等）への位置づけ】《大阪府・大阪市・堺市》2050年に向けた大阪全体のまちづくりの方向性を示した『大阪のまちづくりグランドデザイン(大阪府 大阪市 堺市)』（令和4年12月策定）では、世界遺産古市古墳群や日本遺産竹内街道などの歴史・文化資源等を活かした観光ルートの整備による回遊性の向上を図り、多様な人を呼び込むエリアの形成を目指すこととしており、その中で、歴史・文化資源等をつなぐ観光コンテンツ・ルートの整備やサイクルルートの活用等による回遊性・集客力の向上の一環として、日本遺産竹内街道・横大路（大道）の活用が位置付けられている。《堺市》『堺市基本計画2025』（令和3年度～令和7年度）では、竹内街道などの堺の類稀な歴史文化資源に磨きをかけ、後世にその価値を引き継ぎ、歴史や文化芸術、国際交流を通じて、都市のブランド力の向上を図り、新たな誘客や交流を生み出すとしている。《松原市》『松原市第5次総合計画』（平成31年度～令和8年度）では、まちの魅力の創造・発信の取組項目として、日本遺産竹内街道をはじめとする歴史街道の整備や、特色ある施設等の観光魅力を市民・観光協会・民間事業者との協働により掘り起こし、周辺自治体との連携のもと広域による観光ルートづくりや観光客の誘致活動の展開等を図るとしている。　また、同計画内の歴史・文化の保全・活用の取組項目として、市民と共に文化財の保全に取組むとともに、史跡や日本遺産竹内街道をはじめとする歴史街道等に関する情報発信を強化しながら、有効活用を図るとしている。《羽曳野市》『第6次羽曳野市総合基本計画後期基本計画』（令和3年度～令和7年度）では、道路・交通の施策として「竹内街道などの歴史街道について、来訪者に向けた、案内施設の充実や安全な歩行空間の確保等の環境整備に努める」とし、観光振興・都市間交流の施策として「観光ボランティアガイドの育成」などが位置付けられている。《太子町》『第5次太子町総合計画後期基本計画』（令和3年度～令和7年度）では、重点プロジェクトの施策として「竹内街道周辺地区の良好な景観形成」や「竹内街道灯路祭り」を位置付け、景観の向上及び観光の振興を図るとしている。また、『太子町観光まちづくりビジョン（後期）』（令和4年度～令和8年度）では、取組メニューとして「日本遺産竹内街道での広域連携による展開」が挙げられ、構成自治体での一体となった観光振興の取組を行うとしている。《奈良県》『奈良県観光総合戦略』（令和３年度～令和７年度）では、自然・歴史・文化資源を活用した観光振興として、世界遺産、日本遺産、記紀・万葉等の、奈良らしい歴史文化資源を活かした観光商品の造成に資するような活用を推進するとしている。《葛城市》『第2期葛城市総合戦略』（令和2年度～令和6年度）では、観光業を基幹とした産業の振興を政策の柱に位置付けており、竹内街道に寄り添う松尾芭蕉ゆかりの綿弓塚などの歴史的景観の維持を通じ、市内観光地周遊ルートを活用した集客支援を目指している。《大和高田市》『大和高田市都市計画マスタープラン』（令和4年度～令和13年度）では、古代大和の歴史を伝える地区として位置付けられており、竹内街道・横大路で結ばれる周辺市町村と連携し、地区の活性化を図るとしている。《橿原市》『橿原市観光基本計画』(平成29年度～令和8年度)では、基本戦略の一つとして「広域連携」を掲げており、日本遺産認定をきっかけとした自治体間連携の促進を図るとしている。《桜井市》『第6次桜井市総合計画』（令和3年度～令和12年度）では、「持続可能な行財政運営の方針」の一つとして、「広域連携の促進」を掲げており、竹内街道の集客力を高める取組の一つとしてあげている。《明日香村》『第5次明日香村総合計画基本計画』（令和2年度～令和6年度）では、周辺自治体と連携し、村の文化財・景観等を活かした新たな観光ルート（見どころ）の開発など、魅力を向上･発信することで地域活性化を図るとしている。【その他】2025年には大阪・関西万博が開催されることから、日本遺産「竹内街道・横大路（大道）」は、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」と世界遺産登録を目指している「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」をつなぐ日本最古の官道（国道）として、両世界遺産と連携しながら、インバウンドを含めた国内外の幅広い来訪者に向けて街道の魅力を発信していく。 |

|  |
| --- |
| （２）地域活性化計画における目標 |

|  |
| --- |
| 目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産ストーリーに触れ、その魅力を体験すること |
| 指標①－Ａ：日本遺産ストーリーを体験した来訪者の数 |
| 年度 | 実績 | 目標 |
| 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 |
| 数値 | 74,312 | 64,599 | 108,425 | 140,000 | 170,000 | 200,000 |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | ・実行委員会で把握している構成文化財や周辺の観光案内所などへの来訪者数を指標とする。・2019（R1）年度の来訪者数が182,919人に達して以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、来訪者数は大きく減少したため、当初計画において達成目標としていた200,000人を目標とする。 |

|  |
| --- |
| 目標②：地域において日本遺産ストーリーが誇りに思われること |
| 指標②－Ａ：地域住民が日本遺産ストーリーを理解している割合 |
| 年度 | 実績 | 目標 |
| 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 |
| 数値 | － | － | 25％ | 30％ | 40％ | 50％ |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | ・関連行事においてアンケート調査を実施し、回答のうち「日本遺産竹内街道・横大路（大道）のストーリーを知っている」割合を指標とする。・2022（R4）年度の調査結果25％を基準として、3年間で2倍にすることを目標とする。 |

|  |
| --- |
| 目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること |
| 指標③－Ａ：関連施設の売上 |
| 年度 | 実績 | 目標 |
| 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 |
| 数値 | 2,660,237(千円) | 2,626,509(千円) | 集計中 | 2,653,000(千円) | 2,680,000(千円) | 2,707,000(千円) |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | ・実行委員会で把握している道の駅など関連施設の売上を指標とする。・2019（R1）年度から2020（R2）年度の売上増加率が1％であったことから、2021（R3）年度の売上を基準に、毎年1％増を目標とする。 |

|  |
| --- |
| 目標④：日本遺産ストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること |
| 指標④－Ａ：保存・活用を行った構成文化財の数（累計） |
| 年度 | 実績 | 目標 |
| 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 |
| 数値 | 0 | 3 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | ・関連構成文化財において、保存や活用の取組が行われた数（累計）を指標とする。・取組期間の3年間で、3か所で保存や活用の取組を行うことを目標とする。　 |

|  |
| --- |
| 目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること |
| 指標⑤－Ａ：関連施設への来客数 |
| 年度 | 実績 | 目標 |
| 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 |
| 数値 | 177万人 | 187万人 | 集計中 | 200万人 | 218万人 | 236万人 |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | ・実行委員会で把握している道の駅など関連施設への来客数を指標とする。・2019（R1）年度の来客数が236万人に達して以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、来訪者数は大きく減少したため、2019（R1）年度の来客数の236万人を目標とする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 |

|  |
| --- |
| （３）地域活性化のための取組の概要 |
| 日本遺産竹内街道・横大路（大道）は大阪府域（大阪市、堺市、松原市、羽曳野市、太子町）と奈良県域（葛城市、大和高田市、橿原市、桜井市、明日香村）の全長約44㎞に及ぶ日本最古の国道である。敷設後1400年の歴史の中で、古くは遣隋使が街道を通って大陸からの文化を日本に伝え、中世には経済都市である堺と今井町が街道による交易によって発展するなど、時代によって、街道はその役割を変化させながら、人々の生活に関わり続けてきた。平成29年度の日本遺産認定後、6年間の地域活性化計画期間においては、地域ブランドの構築、それぞれの地域においてストーリーを発信するツールの作成、地域プレーヤーである観光ボランティアガイドとの連携など取組、普及啓発を進めてきた。しかしながら、現在の街道の大部分は生活道路として利用されており、全域を歩くだけではその価値を理解することは困難である。重層的な歴史文化を紡いだ街道の持つ価値の理解を促進するためには沿道に点在する構成文化財を中心としたエリアを磨き上げ、来訪者を誘致し、魅力的なストーリーをツールとして価値を分かりやすく伝えることが不可欠であり、その一連の仕組みづくりが課題である。また、2025年には大阪・関西万博が開催され、インバウンドを含めた国内外の幅広い来訪者に向けた魅力発信とエリアの磨き上げの強化をする必要がある。このようなこれまでの実績と課題を踏まえ、本計画（令和5～7年度）では、以下の取組を重点的に行う。【取組１　構成文化財における日本遺産ストーリーの深化】　沿道には街道の変遷を彩る構成文化財が点在している。これらをエリア毎に巡ることによってこの道が持つ重層的な歴史的役割を感じることができることから、各構成文化財において日本遺産ストーリーを深く、より魅力あるものとして伝えるための発信拠点とするために、サブストーリーの抽出に取組む。　構成自治体の太子町では阪南大学と包括連携協定を締結し、竹内街道沿道にある大道旧山本家住宅及び構成文化財の磯長谷古墳群の一つである二子塚古墳を舞台とし、ヘリテージツーリズムによる活用を目指した取組を展開する。取組においては阪南大学の国際観光学部の学生が関わることになっており、若年層目線での発想や視点により、構成文化財及び日本遺産ストーリーの価値を深化していく。　・歴史講演会の実施　・博物館等での歴史情報の収集と分析　・日本遺産関連物販商品開発　・日本遺産をテーマにした各市町村の自主イベントの促進【取組２　観光ボランティアガイドや民間団体との連携】日本遺産ストーリーの認知度向上による街道自体のブランド化や上記【取組1】におけるサブストーリーの理解を促進するため、構成文化財をルートの一部に盛り込んだウォーキングイベントやサイクリングイベントを民間事業者と協働して実施し、現地への誘客を促進する。あわせて、現地の観光ボランティアガイドと協働し、来訪者の知的好奇心を刺激する魅力的なサブストーリーを分かりやすく伝えることで、再訪を促す仕組みづくりを行う。　日本遺産竹内街道・横大路（大道）は大部分が近畿日本鉄道の沿線と一致しており、鉄道会社と協働し、日本遺産竹内街道・横大路（大道）をテーマとしたウォーキングイベントを実施することで、企業の持つブランドイメージと日本遺産のブランドイメージの相乗効果で、より広域への周知につなげる。また、これまで取組んできた観光ボランティアガイドとの連携について、構成文化財における定点ガイドの手法を用いることにより、多くの人に日本遺産ストーリーや構成文化財から創出されるサブストーリーを深く理解してもらう。あわせて、ゼロカーボンへの取組や新型コロナウイルス感染症の影響により、注目を集めている「サイクルツーリズム」について、スマートフォンのアプリを活用した取組を展開するなど民間事業者の活力を使って誘客の仕組みづくりに取組む。関連して、シェアサイクル拠点の整備等により２次交通の利便性を向上させるなどマイクロツーリズムに対応した交通アクセスの強化にも取組む。　・ウォーキングイベントの実施　・地域団体の担当者向け現地見学会　・サイクルツーリズムを活用したコンテンツ開発　・ふるさと納税の活用【取組３　普及啓発と日本遺産のブランディングと高付加価値化】　これまで地域内へのストーリーの普及や地域への愛着の醸成を目的とし、小学生向けパンフレットや街道をテーマとしたすごろくの作成といった地域の子どもたちが楽しみながら学ぶことができるツールを活用して、地域への普及啓発を行ってきた。これらについての反響がいいことから、今後も街道に関連したノベルティグッズ等を活用して地域への普及啓発を継続するとともに、教員向けに日本遺産ストーリーやサブストーリーを取り入れた研修などを実施し、日本遺産を活用した課外授業や総合学習の実施につなげ、次世代を担う小中学生に向けた教育普及活動を進め、担い手を育成する。また、街道沿道には統一したデザインの案内板を設置するなど、日本遺産竹内街道・横大路（大道）の周知を進めてきたが、2025年の大阪・関西万博の開催により、インバウンドを含め、大阪・関西エリアへの来訪者増加が見込まれることから、世界遺産にも連動させて多言語化した案内板等の整備に継続して取組む。あわせて、知名度の高い構成文化財によるサブストーリーを核としたエリアブランドの創出や沿道の世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」、現在、世界遺産登録を目指している「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」と連携して、PRや寄付につなげる取組を進める。　・学校教育における日本遺産を活用した総合学習の促進　・民間事業者との子ども向け教育イベントの開催　・日本遺産イメージを活用した民間サポーターとの連携 |
| （４）実施体制 |
| ■協議会の名称：竹内街道・横大路～難波から飛鳥へ日本最古の官道「大道」～活性化実行委員会【実施体制】《自治体》・大阪市建設局企画部企画課、教育委員会事務局総務部文化財保護課、経済戦略局観光部観光課・堺市建設局土木部土木監理課、文化観光局観光部観光推進課、文化部文化財課 ・松原市市長公室観光・シティプロモーション課、教育委員会事務局教育総務部文化財課・羽曳野市生活環境部観光課、教育委員会事務局　世界遺産・文化財総合管理室世界遺産課、文化財課・太子町まちづくり推進部観光産業課、教育委員会事務局生涯学習課・葛城市産業観光部商工観光プロモーション課、教育委員会歴史博物館・大和高田市企画政策部広報広聴課、教育委員会事務局生涯学習課・橿原市魅力創造部観光政策課、都市マネジメント部道路河川課、魅力創造部文化財保存活用課、今井町並保存整備事務所・桜井市まちづくり部観光まちづくり課、教育委員会事務局文化財課・明日香村観光農林推進課、教育委員会文化財課・大阪府都市整備部（事業調整室、道路室、住宅建築局建築環境課、富田林土木事務所）、府民文化部都市魅力創造局魅力づくり推進課、教育庁文化財保護課、大阪都市計画局総務企画課・奈良県観光局ならの観光力向上課、文化・教育・くらし創造部文化財保存課《アドバイザー》近畿地方整備局長、大阪芸術大学教授、大阪観光局理事長《民間団体》大阪観光局（DMO）、堺観光コンベンション協会、羽曳野市観光協会、太子町観光・まちづくり協会、葛城市観光協会、一般社団法人　橿原市観光協会、一般社団法人桜井市観光協会、一般社団法人飛鳥観光協会、てんのうじ観光ボランティアガイド協議会、NPO法人 大阪観光ボランティアガイド協会、NPO法人　堺観光ボランティア協会、まつばらまちの案内人、NPO法人 フィールドミュージアムトーク史遊会、観光ボランティア（太子街人の会）、葛城市観光ボランティアガイドの会、橿原市ボランティアガイドの会、（一社）飛鳥観光協会ボランティアガイド、桜井市観光ボランティアガイドの会、羽曳野まち歩きガイドの会、大和高田市文化財ボランティアガイドの会、大阪芸術大学、ダイドードリンコ㈱、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン㈱、あまゆーず、㈱DIIIG、阪南大学、飛鳥・平城京跡歴史公園サポート共同体　飛鳥管理センター、公益財団法人・サイクル開発センター・シマノ自転車博物館【実施体制の整備】将来像の実現に向けた取組を実施するため、平成24年度より本街道沿道自治体(1府1県10市町村)で組織している「竹内街道・横大路　～難波から飛鳥へ日本最古の官道「大道」～活性化実行委員会」は、構成自治体間で各取組事業に関する協議を行う幹事会や各事業を専門的に行う民間事業者を含めた専門部会を設置し、会長市をリーダーとした組織体制のもと、専門部会から幹事会、実行委員会へのボトムアップの体制や広域的な地域間連携の仕組みを構築している。【人材育成・確保の方針】○観光ボランティアガイドの育成中長期的に日本遺産の構成文化財の魅力・情報を発信し続ける人材を確保するため、観光ボランティアガイドの育成を継続して実施する。取組内容としては、各地域で観光ボランティアガイド育成講座などを開催し、ガイド同士の交流による連携強化や他地域での知識を深めることによるガイド技術のスキルアップを図り、日本遺産に関して意見交換をする機会を継続して創出する。○学校教育との連携学校教育における日本遺産を活用した総合学習等を促進し、日本遺産竹内街道・横大路（大道）の構成文化財及びストーリーの普及を図り、地域文化の愛着度を高め、次世代を担う人材の育成・確保について取組んでいく。○大学との連携平成25年には、実行委員会と大阪芸術大学が包括連携協定を締結し、学生や地元住民、自治体による構成文化財をはじめとした地域資源を活用したまちづくりの勉強会を実施し、竹内街道・横大路（大道）全体の魅力づくり向上に努めてきた。令和3年には、地域活性化、街道を含めた魅力あふれるまちづくりの実現のため、これまで取組んできた魅力の再発掘と発信、交流促進に加え、地域への愛着の醸成、観光周遊の促進、歴史資産等の保全、周辺景観の保全と創出に向けた取組方針となる「古代の道からまちづくり 行動指針（案）」を作成した。引続き、景観等の知識を有する大阪芸術大学との連携を行う。令和5年には、太子町と阪南大学が包括連携協定を締結し、竹内街道沿道にある大道旧山本家住宅及び構成文化財の磯長谷古墳群の一つである二子塚古墳を舞台としたヘリテージツーリズムの成立に向けた検討を行っていく。 |
| （５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走 |
| 【ストーリーの認知向上に向けた継続的な取組】竹内街道・横大路～難波から飛鳥へ日本最古の官道「大道」～活性化実行委員会が中心となり、HPでの情報発信や街道まつり等主催イベントにおけるストーリーの周知に加え、各構成自治体の関連イベントにおいても、日本遺産竹内街道・横大路（大道）の魅力発信を実施しており、地域における日本遺産ストーリーの周知に継続的に取組んでいる。また、各地域の観光ボランティアガイドや鉄道会社と協働してガイドウォーキングイベントも継続的に実施しており、実際に街道を歩いてもらうことで直接ストーリーに触れてもらい、街道の魅力を体験できる機会を創出している。現在は、各構成自治体からの負担金及び民間事業者からの寄付金等により事業を推進しているが、PRを継続して実施し、さらなる誘客を確保するためにも、民間事業者との協力関係の強化を図り、さらに寄付金を増加させるなど、新たな財源の確保に向けて検討していく。【民間事業者との取組】　民間事業者との連携を深め、高付加価値化へシフトするため、連携協定の締結を積極的に進めるなど、持続可能な組織体制の構築を図る。既に、互いのPRを目的とした協定に向けた協議を始めており、竹内街道・横大路（大道）の日本遺産イメージを活用して得た収益の一部を実行委員会に寄付としていただき、これを新たな財源とすることで、本実行委員会が更なるPRを実施するためのサイクルの構築を進める。　また、本実行委員会と協定を結んだ民間事業者のノウハウを活用できるよう協力体制の構築も推進する。　加えて、日本遺産や構成文化財の活用を活動のフィールドとする大学や観光ボランティアガイドといった地域団体などと連携し、取組に関わる人材再生産の仕組みの構築を図る。【観光に関する面的な取組】　日本遺産竹内街道・横大路（大道）は令和元年に世界遺産として登録された「百舌鳥・古市古墳群」と世界遺産登録を目指している「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」を地理的につなぐ位置関係にあり、また、その関連市町村の多くは本実行委員会の構成自治体と重複しているため、「世界遺産をつなぐ道」としての新たな展開を企画し、世界遺産との観光的な取組を進める。あわせて、日本遺産「日本国創成のとき～飛鳥を翔（かけ）た女性たち～」や日本遺産「葛城修験　－里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」と連携を図り、魅力ある地域として面的に取組を進め、より多方面からの観光需要の増加につなげ、さらには2025年大阪・関西万博の来訪者に向け、世界を視野に入れた情報発信の取組も行っていく。 |
| （６）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組 |
| 【観光客の受入れ体制強化により、地域経済の活性化と地域住民の意識向上につなげる】国内外の観光客が、街道を基軸としながら、重層的な歴史や自然、伝統を五感で楽しめるよう、日本遺産ストーリーや構成文化財の魅力をこれまで以上に発信し、民間事業者や大学などと連携することにより、観光客の受入れ体制を強化する。具体的には観光ルートを充実させ、SNSなどを活用した情報発信などに取組むことで、観光客誘致だけでなく、観光客が街道沿いに長期的に滞在し、観光リピーターの増加にもつながり、地域経済の活性化への好循環が生まれる。また交流人口が増え、街道沿いの賑わいが増すことで、沿道地域の住民と観光客とのふれあいが生まれ、シビックプライドの醸成や取組への協力者獲得にもつながる。【構成文化財の魅力理解から保存と活用への好循環につなげる】訪れた観光客や地域住民に向けた日本遺産竹内街道・横大路（大道）の構成文化財の魅力を発信する関連ツアーなどを実施する。内容は観光客や地域住民が日本遺産竹内街道・横大路（大道）に愛着を持ち、沿道の構成文化財を総合的に理解できるものや、文化財を活用した付加価値の高い体験ができるものなどを企画する。企画したツアーや体験コンテンツを沿道の様々な構成文化財の保存や活用を目的としたクラウドファンディングの返礼品にすることで好循環につなげる。その他日本遺産竹内街道・横大路（大道）に関連する商品を大学や民間事業者と共同で開発し、ふるさと納税の返礼品にするなど、その収益によって構成文化財に再投資できる仕組を確立する。 |
| （７）地域活性化のために行う事業  |

|  |
| --- |
| （７）－１　組織整備  |
| （事業番号１－Ａ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 実行委員会の体制強化 |
| 概要 | 地域活性化計画の円滑な実施のため、取組の実行を担う実行委員会の体制整備・強化を行う。また、実行委員会の自立・自走に向け、財源確保の仕組を構築する。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
|  | 実行委員会の持続的運営 | 地域活性化計画の取組の実行を担う実行委員会を定期的に開催する。また、幹事会や各専門部会を開催し、活動状況等の情報共有を行う。さらに、民間事業者との連携に係る会議も実施し、協力体制の強化を図る。 | 実行委員会 |
|  | 役割分担の明確化 | 幹事会の決定事項により編成する各専門部会や日本遺産事業の事務を円滑に行うために設置された日本遺産事務局において、日本遺産に関する取組内容を検討していく。業務運営に際し、実行委員会への報告・連携体制を確立し、必要に応じて、実行委員会規約に基づく議決を得る。 | 実行委員会 |
|  | 自立に向けた財源確保の取組 | 実行委員会が継続的に事業を推進していくため、民間事業者からの協賛金・寄付金など、財源を確保する仕組みの構築について、引き続き取組んでいく。また、得られた協賛金・寄付金から文化財保存、景観維持、PR活動などにつなげるサイクルを確立する。 | 実行委員会 |
|  | 民間事業者も参画した組織体制 | 民間事業者との協力体制を確立する。必要に応じて連携協定を締結し、民間事業者のノウハウを活用して、協働で事業に取組むことでストーリーの周知に取組む。また、民間事業者や地域団体を交えた取組ごとの会議やワークショップを開催し、連携強化を図る。 | 実行委員会 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 実施事業数 | 8 |
| 2021 | 13 |
| 2022 | 13 |
| 2023 | 同上 | 15 |
| 2024 | 同上 | 17 |
| 2025 | 同上 | 19 |
| 事業費 | 2023年度：50千円　　2024年度：50千円　　2025年度：50千円　 |
| 継続に向けた事業設計 | 民間事業者と包括連携協定を締結していくなどにより、実行委員会と民間事業者の連携を強化することで、実施事業数の増加や財源確保の仕組みの構築を図り、実行委員会の取組が自立・自走的に実施されることにつなげる。 |

 |

|  |
| --- |
| （７）－２　戦略立案  |
| （事業番号２－Ａ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 戦略的な事業推進の仕組みの確立 |
| 概要 | 地域活性化計画で取組む事業の実施状況を把握し改善するため、実行委員会にPDCAを行う体制を整備する。また、実行委員会の中長期的な戦略の共有を図るため、各構成自治体の行政計画へ実行委員会で行う取組の位置付けを促進する。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
|  | PDCA実施体制の整備 | 地域活性化計画で取組む事業の目標の到達状況について、定期的に実行委員会・幹事会・各部会間で情報共有を図り、取組状況を把握するとともに、課題の特定や新たな魅力創出のために必要な対応について協議する。 | 実行委員会 |
| ② | 各種行政計画への位置付けの促進 | 構成自治体が策定する行政計画等へ日本遺産に関する事項の位置付けを促進するとともに、更新・見直しにあたっても継続的に日本遺産に関する事項を記載するよう取組む。 | 実行委員会 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | PDCAに係る各種会議の開催頻度 | 5 |
| 2021 | 4 |
| 2022 | 7 |
| 2023 | 同上 | 9 |
| 2024 | 同上 | 11 |
| 2025 | 同上 | 13 |
| 事業費 | 2023年度：50千円　　　2024年度：50千円　　　2025年度50千円 |
| 継続に向けた事業設計 | 実行委員会で実施する日本遺産関連事業のPDCAサイクル確立に向け、定期的に実行委員会・幹事会・各部会を開催し、各種事業の取組状況を把握することで、実行委員会の連携体制の強化や実施事業の推進につなげる。 |

 |

|  |
| --- |
| （７）－３　人材育成  |
| （事業番号３－Ａ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 観光ボランティアガイドや地域団体の育成 |
| 概要 | 地域プレーヤーの育成のため、観光ボランティアガイドが活躍する場の創出や地域の民間団体による日本遺産を活用したイベント企画の支援を進める。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
|  | 民間事業者と連携したウォーキングイベントの実施 | 鉄道会社やDMO等の民間事業者と観光ボランティアガイドの協働により、毎年、大阪府と奈良県の2箇所で開催を行い、府県それぞれの複数市町村をつなぐコース選定を行っている。また、構成自治体間及び観光ボランティアガイドの連携により、日本遺産ストーリー、構成文化財のサブストーリー及び沿道市町村の文化・歴史的魅力を広く発信し、街道沿道の周遊を促進させる。 | 実行委員会民間事業者 |
|  | 地域プレーヤーや実行委員会担当者向け現場見学会の実施 | 「竹内街道・横大路（大道）活性化実行委員会」の各構成自治体の担当者が、各市町村における街道の役割や構成文化財の理解を深める現地見学会を実施する。関連する観光ボランティアガイドをはじめとする民間事業者等も参加を促し、地域プレーヤーの育成につなげる。 | 実行委員会民間事業者 |
| ③ | 民間事業者と連携した出前講座の実施 | 民間事業者（ダイドードリンコ㈱）と連携して、竹内街道・横大路（大道）沿道地域において、民間事業者からペーパークラフト等の提供を受けて出前講座を実施する。出前講座では、竹内街道・横大路のPRを行い、日本遺産ストーリーの理解の促進を図る。 | 実行委員会民間事業者 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 観光ボランティアガイドの延べ活動者数（人） | 4,400 |
| 2021 | 4,200 |
| 2022 | 5,900 |
| 2023 | 同上 | 6,400 |
| 2024 | 同上 | 6,900 |
| 2025 | 同上 | 7,400 |
| 事業費 | 2023年度：100千円　　2024年度：100千円　　2025年度：100千円 |
| 継続に向けた事業設計 | ガイドウォーキングの実施にあたっては、大阪府と奈良県の2箇所で複数市町村を巡るコース選定を行っている。また、構成自治体間及び観光ボランティアガイドの連携により、日本遺産ストーリーや構成文化財等を広く周知・発信し、街道沿道の周遊を促進させる。民間事業者（ダイドードリンコ㈱）とは、出前講座による事業連携を行い、沿道地域の小学生等にPRをあわせて行うことで、日本遺産ストーリーの周知を図る。 |

 |

|  |
| --- |
| （７）－４　整備  |
| （事業番号４－Ａ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 大学と連携した構成文化財の活用推進事業 |
| 概要 | 大学との連携により、構成文化財の活用手法について検討を行い、日本遺産ストーリーとひもづくサブストーリーで結びつく地域の構成文化財の充実を図り、保護と活用に結び付く日本遺産への理解を促す。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | 大学と連携した国登録文化財「大道旧山本家住宅」の活用促進 | 包括連携協定を締結している太子町と阪南大学が連携して、竹内街道沿道にある構成文化財である「大道旧山本家住宅」の活用手法について、観光学の観点と日本遺産ストーリーと地域の構成文化財によるサブストーリーの創出を見据え、実現と持続可能な取組の検討を行う。 | 太子町 |
| ② | 大学と連携した国指定史跡「二子塚古墳」の活用促進 | 包括連携協定を締結している太子町と阪南大学が連携して、構成文化財の磯長谷古墳群の一つである「二子塚古墳」の活用手法について、ヘリテージツーリズムの観点と日本遺産ストーリーと地域の構成文化財によるサブストーリーの創出を見据え、実現と持続可能な取組の検討を行う。 | 太子町 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 保存・活用が行われた構成文化財の数（累計） | 0 |
| 2021 | 3 |
| 2022 | 5 |
| 2023 | 同上 | 6 |
| 2024 | 同上 | 7 |
| 2025 | 同上 | 8 |
| 事業費 | 2023年度：500千円　2024年度：500千円　2025年度：未定 |
| 継続に向けた事業設計 | 構成文化財が地域への愛着を生み出す求心力となるよう、魅力を生み出せる活用手法の創出に重点を置いて事業を進め地域や関係人口による持続可能な仕組みづくりを目指す。大学等の民間団体による活用方策検討が、幅広い人々の構成文化財への理解となる仕組みづくりにつなげる。 |

 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| （事業番号４－Ｂ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 博物館と連携した構成文化財の魅力発信事業 |
| 概要 | 各構成自治体に所在する博物館・資料館において構成文化財についての情報収集や展示活動を促進し、各エリアの構成文化財を日本遺産ストーリーにひもづく深く魅力的なサブストーリーに落とし込み、魅力を発信し体験につなげる。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | 各構成自治体の博物館や民間博物館と連携した日本遺産ストーリーに関する研究促進 | 各構成自治体内にある博物館等において、構成文化財についての研究や歴史情報の収集と分析を促し、成果の発表や普及を通じて魅力的なサブストーリーの創出につなげる。 | 実行委員会 |
| ② | 各構成自治体の博物館や民間博物館と連携した日本遺産ストーリーを活用した展示会の開催を促進 | 各構成自治体内にある博物館等において、日本遺産ストーリーを活用した展示会の開催を働きかけ、各エリアの構成文化財の魅力をサブストーリーとして発信し、日本遺産ストーリーのより深い理解と幅広い人々への普及につなげる。 | 実行委員会 |
| ③ | 博物館における日本遺産カウンターの設置 | 構成文化財のサイトミュージアムとなっている博物館に、日本遺産ストーリー全体を伝え、地域の構成文化財に関する情報発信の拠点となる窓口を設置し、地域内外の来訪者へ日本遺産の魅力発信につなげる。 | 実行委員会 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 博物館等と連携を図った自治体数（累計） | 2 |
| 2021 | 2 |
| 2022 | 2 |
| 2023 | 同上 | 4 |
| 2024 | 同上 | 6 |
| 2025 | 同上 | 10 |
| 事業費 | 2023年度：100千円　　2024年度：100千円　　2025年度：100千円 |
| 継続に向けた事業設計 | 構成文化財が地域への愛着を生み出す求心力となるよう、魅力を生み出せる活用手法の創出に重点を置いて事業を進め、地域や関係人口による持続可能な仕組みづくりを目指す。博物館による日本遺産ストーリーの活用が構成文化財の魅力創出や発信につながり、保護や保存の下支えとなる好循環の仕組みづくりにつなげる。 |

 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| （事業番号４－Ｃ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 歴史講演会を通じた構成文化財の魅力発信事業 |
| 概要 | 日本遺産ストーリーと構成文化財に関する歴史講演会を実施し、日本遺産ストーリーの普及を促し、各エリアの構成文化財をサブストーリーにより魅力を深めて活用を促進する。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | 各構成自治体で日本遺産ストーリーを活用した歴史講演会の開催促進 | 各構成自治体で計画される歴史講演会等のテーマでの日本遺産ストーリーの活用を促進し、各地域の構成文化財のサブストーリーによる魅力の掘り起こしにつなげる。 | 実行委員会 |
| ② | 民間団体が主催する日本遺産を活用した歴史講演会の開催促進 | 各地域で活躍する日本遺産に関連する民間団体と連携し、構成文化財を活用した歴史講演会の開催を働きかけ、エリアの構成文化財のサブストーリーの活用につなげる。 | 実行委員会 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 日本遺産ストーリーを活用した歴史講演会を開催した自治体数（累計） | 2 |
| 2021 | 5 |
| 2022 | 6 |
| 2023 | 同上 | 7 |
| 2024 | 同上 | 8 |
| 2025 | 同上 | 10 |
| 事業費 | 2023年度：100千円　　2024年度：100千円　　2025年度：100千円 |
| 継続に向けた事業設計 | 構成文化財が地域への愛着を生み出す求心力となるよう、魅力を生み出せる活用手法の創出に重点を置いて事業を進め、地域や関係人口による持続可能な仕組みづくりを目指す。観光ボランティアガイド等の地域団体が、日本遺産ストーリーの魅力を再発見しながら自主的な歴史講演会の開催に取組む仕組みづくりにつなげる。 |

 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| （事業番号４－Ｄ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 構成文化財の保存・継承事業 |
| 概要 | 日本遺産の構成文化財を史跡として保存し、その価値を継承する。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | 二子塚古墳の整備 | 太子町にある構成文化財「磯長谷古墳群」の一つである「二子塚古墳」について、住民が歴史的価値を理解し体感できることや来訪者にとって憩いや交流の場となるような史跡を目指し、平成30年度に策定した保存活用計画に基づき、史跡を保護するとともに、適切な管理運営体制を確立し、保存活用を推進する。 | 太子町 |
| ② | 百舌鳥古墳群保存管理事業 | 堺市にある構成文化財「百舌鳥古墳群」のうち、堺市が管理している国指定史跡百舌鳥古墳群19基については、平成27年度に策定した保存管理計画に基づき、適切な日常管理を実施している。また、百舌鳥古墳群をより理解できるよう、古墳の環境整備に着手する。 | 堺市 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 整備・保存を行った構成文化財の観光ボランティアガイド利用者数（人） | 16,000 |
| 2021 | 11,000 |
| 2022 | 25,000 |
| 2023 | 同上 | 30,000 |
| 2024 | 同上 | 35,000 |
| 2025 | 同上 | 40,000 |
| 事業費 | 2023年度：135,264千円　2024年度：79,303千円2025年度：133,000千円 |
| 継続に向けた事業設計 | 日本遺産ストーリーが持続的可能なものとして継承されるよう、構成文化財の保存を推進する。また、単に保存されるだけでなく、地域への愛着を生み出す求心力となるよう、その活用についても検討を進める。 |

 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| （事業番号４－Ｅ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 地域支援型自動販売機推進事業 |
| 概要 | 民間事業者と連携して地域支援型自動販売機設置の推進を行い、日本遺産竹内街道・横大路（大道）のラッピングが施された自動販売機を街道沿線に設置し、街道の環境整備やPRの拡大につなげる。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | 地域支援型自動販売機の設置 | 民間事業者と連携して、日本遺産「竹内街道・横大路（大道）用共通ラッピング」を施した自動販売機を竹内街道・横大路（大道）の沿線や構成文化財周辺に設置し、統一的なデザインにより、日本遺産としての認知及び利便性向上を図り、街道の環境整備やPRにつなげる。また、売上の一部を実行委員会の取組資金として寄付してもらい、継続的なPR活動につなげるサイクルを構築する。 | 実行委員会 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 地域支援型自動販売機の設置数（累計） | 3 |
| 2021 | 3 |
| 2022 | 3 |
| 2023 | 同上 | 5 |
| 2024 | 同上 | 7 |
| 2025 | 同上 | 9 |
| 事業費 | 2023年度：0千円　2024年度：0千円　2025年度：0千円 |
| 継続に向けた事業設計 | 民間事業者と連携した地域支援型自動販売機設置の推進により、実行委員会が継続的に活動を行う仕組みづくりを構築するとともに、地域の機運醸成やさらなるPR活動の拡大につなげる。 |

 |

|  |
| --- |
| （７）－５　観光事業化  |
| （事業番号５－Ａ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 日本遺産関連サイクルツーリズムコンテンツ開発事業 |
| 概要 | 日本遺産関連地域でニーズが見込まれるマイクロツーリズムとサイクルツーリズムへの日本遺産ストーリーの落とし込みを進め、日本遺産の観光商品としてのマーケット開拓を進める。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
|  | 民間事業者と連携したスマートフォンアプリによるサイクルツーリズム観光商品のコンテンツ開発 | スマートフォンのGPS機能を活用したサイクリスト向けアプリを利用し、各エリアの構成文化財をサイクルコースに取り込むコンテンツ展開を進め、日本遺産ストーリーの観光商品化を促進する。 | 実行委員会民間事業者 |
|  | 民間事業者との連携によるサイクルツーリズムを活用した日本遺産エリアの魅力向上 | 日本遺産エリアの施設にサイクルラック・空気入れ・工具等の設置普及を促進し、ホームページやSNS等を活用したサイクリストへの情報発信等を進め、日本遺産エリアの観光商品としての魅力向上を図る。 | 実行委員会民間事業者 |
|  | レンタサイクル、シェアサイクル等の活用促進 | レンタサイクルやシェアサイクルを実施する民間事業者等の誘致を促進する。地域内の周遊を促進し、利便性の向上を図る。 | 実行委員会 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 日本遺産に関連したサイクルツーリズムコンテンツの造成をした自治体数（累計） | 1 |
| 2021 | 3 |
| 2022 | 4 |
| 2023 | 同上 | 5 |
| 2024 | 同上 | 7 |
| 2025 | 同上 | 10 |
| 事業費 | 2023年度：200千円　2024年度：200千円　2025年度：200千円 |
| 継続に向けた事業設計 | 多くの人が手軽に日本遺産ストーリーを体験できるよう、ニーズの見込まれるアクティビティを介した収益事業が行われる仕組みと環境整備を民間事業者との連携によって進め、継続的な仕組みとすることを目指す。日本遺産エリアの特性を活かしたマイクロツーリズムとサイクルツーリズムを活用して、日本遺産ストーリーの魅力が収益につながる仕組みの構築につなげる。 |

 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| （事業番号５－Ｂ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 観光ボランティアガイド活用促進事業 |
| 概要 | 日本遺産関連地域でニーズが見込まれるマイクロツーリズムについて、観光ボランティアガイドと連携することにより、日本遺産ストーリーの周知と、構成文化財への誘客を進める。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | 観光ボランティアガイドとの連携 | 観光ボランティアガイドと連携し、普段ガイドする時に日本遺産ストーリーを意識した内容が含まれるよう働きかける。 | 実行委員会民間事業者 |
| ② | 構成文化財への誘客 | 日本遺産の構成文化財を周遊コースに入れるなど、構成文化財周辺へ誘客する仕組みづくりを促進する。 | 実行委員会民間事業者 |
| ③ | 観光ボランティアガイドを活用したウォーキングイベントの実施 | 観光ボランティアガイドと協働で、ウォーキングイベントを実施し、日本遺産ストーリーの理解促進と、各構成文化財への誘客を促進する。 | 実行委員会 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 観光ボランティアガイドを活用したイベントの実施数 | 5 |
| 2021 | 14 |
| 2022 | 14 |
| 2023 | 同上 | 14 |
| 2024 | 同上 | 14 |
| 2025 | 同上 | 14 |
| 事業費 | 2023年度：100千円　　2024年度：100千円　　2025年度：100千円 |
| 継続に向けた事業設計 | 地域への来訪者がより多く構成文化財を訪れることと、より深く日本遺産ストーリーを理解することにより、再訪につなげることを目指す。街道の沿道にある構成文化財へ誘客する仕組みづくりを実施することにより、構成文化財周辺エリアにおいて、来訪者の消費が活発になり、地域が活性化することにもつなげる。 |

 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| （事業番号５－Ｃ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 日本遺産関連商品開発事業 |
| 概要 | 日本遺産エリアの特性を活かした農産物や手工業製品を中心に、日本遺産ストーリーを活用した物販商品の開発に向けた取組を促進する。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | 日本遺産ストーリーを活かした農産物等関連商品の開発 | 日本遺産エリアにおけるフルーツや名産品、伝統食などの特産品を日本遺産ストーリーに落とし込み、新たなブランドを創出する取組を推進する。 | 実行委員会民間事業者 |
| ② | 日本遺産ストーリーを活かした手工業関連商品の開発 | 日本遺産エリアにおける伝統的な工業製品や工芸品などを日本遺産ストーリーに落とし込み、新たなブランドを創出する取組を推進する。 | 実行委員会民間事業者 |
| ③ | 日本遺産ストーリー関連商品の普及促進 | 日本遺産エリアにおける日本遺産関連商品のブランド化と普及を促進する。 | 実行委員会 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 日本遺産ストーリーを活用して商品開発をした自治体数（累計） | 0 |
| 2021 | 1 |
| 2022 | 1 |
| 2023 | 同上 | 2 |
| 2024 | 同上 | 5 |
| 2025 | 同上 | 10 |
| 事業費 | 2023年度：300千円　　2024年度：300千円　　2025年度：300千円 |
| 継続に向けた事業設計 | 多くの人が手軽に日本遺産ストーリーを体験できるよう、日本遺産エリアの特性からニーズの見込まれる商品開発により収益事業が行われる仕組みと環境整備を民間事業者との連携によって進め、継続的な仕組みとすることを目指す。日本遺産エリアの特性を活かしたフルーツなどの農産物や工芸品を活用して、日本遺産ストーリーの魅力が収益につながる仕組みの構築につなげる。 |

 |

|  |
| --- |
| （７）－６　普及啓発  |
| （事業番号６－Ａ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 竹内街道・横大路（大道）魅力発信事業 |
| 概要 | 日本遺産をテーマにした各市町村の自主イベントの促進を行い、魅力発信を進める。また、対外的な発信だけでなく、教育現場に対しても日本遺産の普及啓発に注力し、本事業のストーリーが守られ、次世代に継承されていくよう地域に根付く取組を実施する。また、大学との連携や他の日本遺産と連携することで横展開を図り、多方向からの周知の実施、新たなファンの獲得に取組む。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
|  | 竹内街道・横大路（大道）まつりの実施 | 大阪府と奈良県に跨る沿道10市町村が一堂に会し、｢竹内街道・横大路（大道）まつり」を毎年開催地域を変えて継続して開催し、街道のストーリー体験やステージイベント等多彩なコンテンツにより地域の魅力発信や日本遺産としての地域の機運醸成を図っていく。 | 実行委員会 |
|  | 日本遺産をテーマにした各市町村の自主イベントの促進 | 構成自治体が主体となり、日本遺産ストーリー及び構成文化財をテーマとしたイベントの実施や各構成自治体のイベントでのブース出展なども促進する。ブース出展の際には、これまでの取組で作成した「竹内街道・横大路（大道）すごろく」を活用し、実際にその場で遊んでもらい楽しみながらストーリーを体験してもらえる仕掛けを施し、より深い認知度の向上を目指す。また、ウォーキングやサイクリングなどのアクティビティを主体としたイベントの充実を図り、サイクリストをターゲットにするなど今までにない切り口から日本遺産竹内街道の魅力に触れる機会のさらなる創出に取組む。 | 実行委員会 |
|  | 学校教育における日本遺産を活用した総合学習の促進 | 教員向けに日本遺産ストーリーをテーマとした研修を実施するなど、日本遺産を活用した課外授業や総合学習の促進を図る。古来より歩き継がれてきた地域の遺産を次世代に継承していくために、児童に対してだけでなく、教員に対しても普及を図り、教育現場に取り入れてもらうよう働きかけることで、地域の文化に対する誇りの醸成や継続的な継承の場を創出する。 | 実行委員会 |
|  | 大学ゼミや他の日本遺産事業との連携 | 沿線や関係する大学のゼミ生の研究過程で、日本遺産竹内街道や構成文化財を取り上げてもらい、活用方法の検討や情報発信における協力関係の構築を促進する。関係する他の日本遺産との横連携を図り、共同で事業に取組むなど、新たな集客・ファンの獲得を目指す。実行委員会が主体となって相互の地域団体との橋渡し役となり、各々の日本遺産を一度で歩くツアーの開催や、SNS等で相互に日本遺産ストーリーを紹介し合い、新たな層に向けた情報発信、公開講座の共催による相互のストーリーや構成文化財の魅力発信に取組む。 | 実行委員会協定大学 |
|  | フォトコンテスト作品のリレー展示 | デジタルサイネージでの発信や、SNS上でのフォトコン開催など、デジタル化を促進して、より幅広い普及を図る機会を設ける。実行委員会の構成自治体や観光協会においてもSNS等で街道の魅力やイベント情報を継続して発信していけるよう調整、連携の強化に取組む。 | 実行委員会 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 総合学習等に日本遺産を取り入れた実施自治体数（累計） | 1 |
| 2021 | 1 |
| 2022 | 2 |
| 2023 | 同上 | 4 |
| 2024 | 同上 | 7 |
| 2025 | 同上 | 10 |
| 事業費 | 2023年度：1,000千円　2024年度：1,000千円　2025年度：1,000千円 |
| 継続に向けた事業設計 | 2023年度：小学校や大学などの教育機関、関係する他の日本遺産事業事務局との連携協力体制の構築を進め、小学校での出前授業の実施や、教員に対する研修などでの活用や総合学習での活用につながる環境の整備に取組む。実績のある地域団体の取組を構成自治体間で情報共有する。2024-2025年度：出前授業や教員研修への日本遺産ストーリーの活用促進を継続して行い、教育現場での環境整備を進め、総合学習に取組む地域の拡大を図る。総合学習においては、座学だけでなく実際に街道を歩き、構成文化財に触れ、体験してもらうフィールドワークになるよう、自治体・教育現場間の連携強化に取組む。 |

 |

|  |
| --- |
| （７）－７　情報編集・発信  |
| （事業番号７－Ａ）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 情報発信事業 |
| 概要 | 日本遺産の魅力発信を継続的に行うとともに、各市町村が行う日本遺産をテーマにした自主イベントの実施を促進する。イベント情報や来訪者が必要とする情報発信を進める。 |
|  | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | HPにおける情報発信 | 実行委員会HP及び日本遺産HPにおいて、各市町村が実施する日本遺産を活用した様々なイベント情報をタイムリーに発信する。 | 実行委員会 |
| ② | SNSにおける情報発信 | 実行委員会のSNSを整備し、各構成自治体や協力体制にある観光協会等の既存のSNSとひもづけて、閲覧の誘導を促す仕組みを形成するなど積極的な連携を行う。広報班などの体制づくりをする。 | 実行委員会 |
| ③ | デジタルスタンプラリー | デジタルスタンプラリーなど、構成文化財の周遊を促すためのコンテンツを整備する。 | 実行委員会 |
| ④ | 多言語に対応した情報発信 | 多言語に対応したHPやPR冊子等の作成を行い、多言語による情報を発信する。 | 実行委員会 |
| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
| 2020 | 情報発信回数等（実行委員会HP） | 5 |
| 2021 | 18 |
| 2022 | 12 |
| 2023 | 情報発信回数（実行委員会HP、新たに整備するSNS等） | 20 |
| 2024 | 同上 | 25 |
| 2025 | 同上 | 30 |
| 事業費 | 2023年度：200千円　　2024年度：200千円　　2025年度：200千円 |
| 継続に向けた事業設計 | 各構成自治体が保有する既存の情報媒体を活用するとともに、既存の情報媒体が相互に連携しタイムリーな情報発信を行い、必要に応じてHPやSNS等の新規媒体の整備を行う。 |

 |